

豊中の未来を描こう！！

発行 2016年9月

VOL. 119

まだまだ
暑い日が
続きますね (汗)

かんばらこういちろう 神原宏一郎の つながり通信

～生活・社会そして人・・・すべては政治とつながっている～



豊中市議会議員
無所属

関心・期待感・信頼感を抱く政治へ



◆9月議会での個人質問予定◆

①学校給食の食べ残し問題について ～米飯は食べ残しが多い??～



今年度から米飯給食が週2回から3回に増えました。ただ、1回あたりの食べ残しを比べると、パン188kgに対し、米飯674kgとかなり多く、米飯の食べ残しは、年々、増加し続けています。

Q1:米飯給食の回数を増やした背景や理由は？

Q2:米飯は、パンよりも配膳や片付けに時間を要するため、給食時間が足りない児童がいるのではないかと？

Q3:米飯とおかずの量のバランスや、ご飯とおかずの食べ合わせが悪いのではないかと？

～新たな生ごみ・剪定枝堆肥化機械の 運用状況について～



費用対効果の極めて悪い生ごみ・剪定枝堆肥化事業ですが、再三の問題提起にも拘わらず、市は昨年末に2160万円をかけて堆肥化機械を新しくしました。

Q1:堆肥化機械を新しくしたことで、人件費や維持管理費など経費の削減は出来たのか？

Q2:新しくした機械で製造された『とよっぴー』は、従来のものと比べて、良質なもののなのか？

Q3:「とよっぴー」を知らない児童がまだまだ多いが、施設を活用した積極的な周知は考えているのか？

②不登校の実態と課題の解決策について ～中学生の不登校が激増??～

近年中学校の不登校生徒数は増加傾向にあり、下表のとおり、今年度はより深刻な状況にあります。

	H. 24年	H. 25年	H. 26年	H. 27年	H. 28年
1学期末10日以上	154人	166人	201人	192人	264人
3学期末30日以上	205人	256人	268人	318人	390人 (予測値)
不登校率(%)	2.04	2.50	2.66	3.21	4.04



Q1:なぜ、増加し続けているのか？不登校に至る主な要因は？

Q2:特定の地域や学校、クラスで発生しているということはないのか？

Q3:不登校生徒の生活実態を把握できているのか？不登校生徒の学校以外の居場所づくりは？

Q4:少年文化館が中心となって支援事業を展開しているが、フリースクールに対する市の見解は？

皆さまのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

メールアドレス: young_spiritjp@yahoo.co.jp



◆ 庄内地域の小学校6校と中学校3校が2つの小中一貫校へ～小中一貫校は何をもたらすのか??～ ◆

現在、豊中市は、庄内地域の6つの小学校と3つの中学校を統廃合し、2つの小中一貫校を建設する計画案を検討しています。その背景や経緯と小中一貫校のメリットや可能性を考察したいと思います。

【庄内地域の小中学校の統廃合と小中一貫校の建設が計画された背景】

- ①小規模化の課題(クラス替えができず、人間関係の固定化。部活動や委員会活動等が縮小傾向。)
- ②生活・学習課題(生活習慣が整わず、不登校になる子どもや、学習意欲に欠ける子どもが多い。)

<小中一貫校の整備で期待される効果>

- ①学習指導上の効果(学習意欲の向上、学習習慣の定着。学習に悩む児童・生徒の減少。)
- ②生活指導上の効果(中1ギャップの緩和。生活リズムの改善。コミュニケーション能力の向上。)
- ③児童・生徒数の増加(クラブ活動の活性化。体育祭や合唱コンクールなど学校行事の活性化。)

<小中一貫校の整備で懸念される課題と解決案>

- ①通学校区が拡大し、通学時間・通学距離が増え、子どもの負担や通学中の危険度が増す。(→大幅に通学距離が延びる場合は、スクールバスの導入を検討してはどうか?)
- ②多学年の子どもの共同生活で危険が増す。(→校舎配置の工夫や跡地の活用を検討すべき!!)



<小中学校の統廃合と小中一貫校の整備案>

6小学校(庄内小学校・庄内西小学校・庄内南小学校・野田小学校・島田小学校・千成小学校)と
3中学校(第6中学校・第7中学校・第10中学校)を統廃合し、**2**小中一貫校を建設する。

★第1案: 施設一体型小中一貫校

小学1年生から中学3年生までが一つの施設
 北校(庄内小学校敷地に建設)
 南校(千成小学校敷地に建設)

★第2案: 施設分離型小中一貫

小学1年～4年生、小学5年～中学3年生を分離
 北校(庄内小学校敷地と第7中学校敷地に建設)
 南校(庄内南小学校敷地と千成小学校敷地に建設)

【文教常任委員会等での視察で、小中一貫校になった学校の様子を伺いました】

①小学校と中学校との円滑な接続

小中一貫校では、進級(進学)時の不安の軽減や不登校等の発生を未然に防ぐ効果があるとのこと。



②教育効果(学力)の向上

全教職員に小学校と中学校の兼務発令をすることで、生活指導を1～9学年一体的に行えたり、小学校と中学校の教職員が合同研究や授業交流をすることで、児童・生徒の学習実態の情報共有など教育効果が高まり、学力向上に繋がっているとのこと。

③部活動の活性化

生徒数の増加で、クラブ数が増加したとのこと。



④新たな地域の拠点に

従来の地域の繋がりは維持しつつ、地域が誇れる新たな地域拠点として位置づけられ、新たな地域コミュニティーが形成されているとのこと。

《神原の見解:現状のままで良いはずがない!!》



小学校と中学校の合計9校を閉校し、新たな小中一貫校を建設するという複数の学校が絡んだ計画であり、地域の方々や当該学校の関係者の方々の意向は十分に考慮する必要があると思いますが、小中一貫校のメリットや可能性については、少なからずあると思います。今後も児童生徒数の減少が見込まれる中、子どもたちや地域の方々が誇りを持ち、魅力に感じられる学校整備が望まれます!!

発行元 前向きひろば ～Positive Square～

〒560-0021 豊中市本町 3-1-20 エルビル 2 階

TEL & FAX: 06-6854-5664

平日(土・祝日は除く)の 10時から 17時はスタッフがおります。

young_spiritjp@yahoo.co.jp

http://www.geocities.jp/positive_square/

Facebook 活用しています!!

「つながり日記」毎日 HP で更新中!!

※ご希望の方には通信を無料でお届けします。お気軽にご連絡ください。



前向きひろば 神原宏一郎 事務所

